

目 次

1. 気候	1
2. 地勢	8
3. 観光地方誌	13
(1) 北海道地方	13
(2) 東北地方	16
(3) 関東地方	20
(4) 中部地方	28
(5) 近畿地方	36
(6) 中国地方	39
(7) 四国地方	45
(8) 九州地方	47
(9) 沖縄地方	51
4. 自然公園	53
(1) 国立公園	53
(2) 国定公園	73
(3) 都道府県立自然公園について	85
(4) 海城公園について	85
5. 記念物	86
(1) 特別史跡	87
(2) 特別名勝	89
(3) 特別天然記念物	90

6. 世界遺産などのリスト	94
(1) ユネスコ世界自然遺産	94
(2) ユネスコ世界文化遺産	94
(3) ユネスコ無形文化遺産	96
(4) ユネスコエコパーク	98
(5) ユネスコ世界ジオパーク	98
(6) ラムサール条約登録湿地	99
(7) 世界農業遺産	100
7. 項目別観光資源	101
(1) 神社	101
(2) 寺院	103
(3) 城郭	104
(4) 温泉	106
(5) 日本庭園	108
(6) 国指定重要文化的景観	109
(7) 国指定重要伝統的建造物群保存地区	112
(8) 美術館・博物館・記念館など	115
(9) テーマパーク・レジャー施設など	119
(10) 年中行事（祭など）	120
(11) 陶磁器	123
(12) 郷土料理・地元食材	124

◎噴火の種類による分類

マグマの役割から下記の3つに分けられている。

マグマ噴火、マグマ水蒸気噴火、水蒸気噴火

◎マグマ噴火の様式による分類

以下のような分類があるが、同じ山でも異なった噴火の仕方をする
ことがある。

ブルカノ式噴火 (Vulcanian eruption)

溶岩にふさがれていた火口がガスの圧力で開かれ、火山岩、火山灰などが爆発状に放出されるもので、浅間山・桜島など日本の火山ではこの型の噴火が多い。

プリニー式噴火 (Plinian eruption)

成層圏にまで達するような爆発的な噴火で、一気にマグマの噴出が続く。富士山の宝永大噴火・浅間山の天明噴火、1977年の有珠山噴火など。

ストロンボリ式噴火 (Strombolian-type eruption)

比較的粘性の低い玄武岩質マグマが吹き上がる。火山灰よりも火山弾やスコリアなどを激しく放出する。阿蘇山・三原山(伊豆大島)・西之島で見られている。

プレー式噴火 (Pelean eruption)

粘性のある溶岩が爆発するのに伴い、熱雲が山腹を流れ下る。インド諸島のプレー火山で見られた。

ハワイ式噴火 (Hawaiian-type eruption)

流動性の大きい玄武岩質溶岩が、割れ目状火口から流出する噴火形式。ハワイのキラウエア火山などの噴火がその代表的なものである。日本では三原山がこの種の活動をするところがある。

(注) シュナイダーの分類の表記(アスピーテ、トロイデ、コニーデなど)は、今でも文書や看板などで見かけるが、「マール」以外は日本でも現在は学術用語としては使われていない。

火山の多いことは、**温泉**の楽しみと変化に富む美しい山野と言う恵みを人々にもたらしたが、火山の噴火そのものの災害はもとより脆弱な地質を生む。**急峻な地形**の多いこの国では、地震や降雨による**土砂・洪水災害**の恐れが常に存在する。また地震により発生する**津波**は沿岸地域に被害をもたらす。この国の歴史の中で**自然災害**への対策は多くの地域において、歴代の為政者にとり大きな難題でもあったが、現在もなお**治山・治水事業**や**土木技術**の改良により災害の阻止を図ることが全国的な重点課題である。

- (17) **いづめこ人形** (山形県鶴岡市)・・・ご飯の保温に使う藁で編んだ籠〔イヅメ〕に幼児を入れて農作業の間に守ったという庄内地方の古くからの風習を具現化した人形。

(3) 関東地方

古代から入植や開拓が行われていたが、古くは**坂東**と呼ばれ、都から見て東の辺境であった。平安時代後期には在地領主が力をつけて**武士団**を形成するようになり、次第に影響力を持つようになった。12世紀には東国支配権を確立した源頼朝が鎌倉に幕府を置き、発展を見た。江戸時代になると、**江戸**が政治の中心となり、江戸から四方へ道路が整備され⁽¹⁾、関東平野の**開拓**も盛んになった。水利の悪い**武蔵野**台地や**利根川**下流などの低湿地にも多くの**新田**が開かれた。利根川の大規模な治水工事も行われている。また、東北地方の開発も進んだので、江戸は東日本の中心となり経済的にも西の大阪と並んだ。

- (1) 東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道を**五街道**と呼ぶ。その他にも水戸街道、三国街道、伊勢路など**脇往還**と呼ばれる街道が全国にはりめぐらされた。

東海道・・・古代では五畿七道(別称「畿内七道」)の1つで、伊賀、伊勢から東の遠江(静岡)、武蔵(神奈川・埼玉の一部と東京)及び常陸(茨城)に至るまでの15か国を表す行政区分。この地域を通る街道も東海道と呼ばれた。鎌倉時代から鎌倉と京都を結ぶ重要な街道となり、江戸時代に五街道の1つに定められた。

中山道・・・中仙道とも書かれていた。江戸の日本橋から、大宮、高崎、軽井沢、下諏訪、妻籠、馬籠など本州の中央山地の山間を抜け、関ヶ原、守山を経て、草津で東海道と合流し京都へ至る。

甲州街道・・・甲州道中とも言われた。起点となる江戸の日本橋から西へ向かい、内藤新宿(現在の新宿)を経て甲府を抜け、中山道に下諏訪で合流する。

日光街道・・・江戸の日本橋から宇都宮を経て日光に至る道が日光街道と呼ばれた。日本橋と宇都宮の間は奥州街道と重なる。一方、將軍の日光社参のためには、中山道の本郷追分から分岐して幸手で日光街道に合流する**日光御成街道**が整備された。京の朝廷からの勅使は中山道から**日光例幣使街道**を通った。今市付近には**杉並木**が残り特別史跡および天然記念物の二重指定を受けている。

奥州街道・・・奥州道中、奥羽街道、陸羽街道などと言う。江戸の

日本橋を起点に、千住、宇都宮、白河、仙台、花巻、三戸から青森三厩〔ミンマヤ〕に至る。

明治時代になってからは、首都としての東京では、政治・経済・文化の発展がさらに著しく、第二次世界大戦後は、商工業でも大阪をしのぎ、新しい日本の中心となった。

面積では日本全体の 8.5% にあたる関東地方 1 都 6 県の人口は 4351 万人 (2020 年)、日本全体の 34% になる。関東地方の人口密度はわが国最高の 1343.5 人となっている。

ここにはわが国の人口の 1 割余りを持つ東京都に加え、東京区部に次ぐ人口を擁する横浜があり、その周りに 100 万都市になった川崎、それに千葉・船橋 (京葉工業地域)・松戸 (千葉県)・川口 (埼玉県)・さいたま市・八王子・相模原 (神奈川県)・横須賀 (神奈川県) などの多くの都市が並んでいる。前橋市・水戸市・宇都宮市は、城下町時代から引き続いて近辺の中心都市として発達してきた。また、日光市・成田市などは門前町として、栃木市・川越市などは江戸への物資の集積地として栄えたことが基になる。

わが国における最も人口の集中している地方だけに、住民による行楽、観光旅行が活発に行われている地方である。

東京を中心に、日帰りや週末旅行地が遠心的に分布し、休日には賑わいを見せている。都内近辺の散策地は別として、行楽地・週末旅行先の大部分は、東京を中心に放射状に伸びる鉄道や道路網に沿って分布しているので、連休などにはこれらの道路・鉄道が混雑し、高速道路の渋滞も発生する。

交通網の発達により、関東全域が首都圏在住者にとり日帰りや 1 泊で可能な旅行先となっている。また、圏央道・外環道・中央環状線などの環状道路の整備に伴い、都心を通らずに関東地域内を移動することも出来るようになってきた。海と山の両方の行楽地が数多くあり、また、冬も山間部以外は雪が少なく比較的晴天が多いことから、年間を通じて近郊への観光が盛んである。景勝地・温泉地・歴史探訪のほか、季節の花・果物狩り・花火大会やイルミネーション・祭りなど、季節ごとに人気の目的地もある。海水浴・ハイキングなどのレジャーに加え、変化のある日本の河川を利用したラフティングなどのアウトドアアクティビティも、鬼怒川・利根川・荒川の上流域で人気を集めるようになってきた。また、テーマパークなどのレジャー施設を目的とした行楽も多い。

東京都民にとっての散策地は、東京西郊の深大寺〔ジンダイジ〕⁽¹⁾ 一帯

4. 自然公園

国立公園・国定公園・都道府県立公園を自然公園と総括するが、この自然公園は、国土の自然風景の粹とも言うべき地域を、将来にわたって保護するとともに、これを国民の保健、休養、教化に活用し、あわせて国際観光に資し、国際理解の増進を計ろうとするものである。2020年3月現在**国立公園**は34、**国定公園**が57、**都道府県立自然公園**に指定されているものが311か所に達している。

20世紀、ことに第二次世界大戦後は、各種開発や生活スタイルの変化に伴い、風景の変化や急速な自然破壊が進んだ時代でもあった。尾瀬一带の自然保護運動などが先駆けとなり、自然環境への関心や、観光開発に伴って自然が損なわれることへの問題意識が次第に高まり、施策にも反映されるようになってきた。道路の迂回、自然再生事業の推進、自然公園内にある私有地の国有化なども行われている。バランスの難しい問題でもあるが、継続的な取り組みが求められている。

そのような中で、自然保護と観光を両立させた**エコツーリズム**への取り組みが人気を呼んでいる。知床地区（北海道）、小笠原諸島（東京都）、白神山地（秋田県・青森県）、西表島〔イリオモテジマ〕（沖縄県）、四万十川（高知県）などをはじめ全国各地で、「見る観光から体験する観光」、「自然への知的探求心を高める観光」、「子供が自然と触れ合う体験」などの活動がエコツーリズムとして増えている。

最近是国内の観光客だけでなく、インバウンド関係者の努力により日本各地が紹介され、自然公園にも足を延ばす外国人観光客が増えている。各地の観光資源の紹介や掘り起しなどが見られるようになってきた。

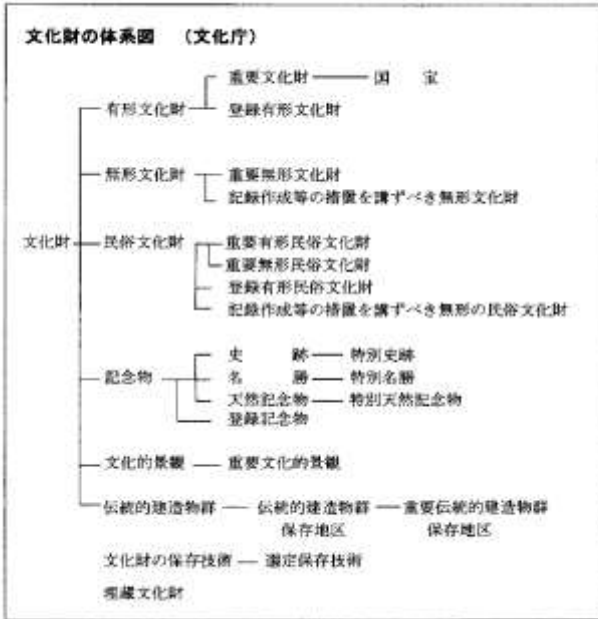
(1) 国立公園

1 利尻礼文サロベツ〔リシリレブンサロベツ〕

北海道の北端、西方洋上に浮かぶ利尻・礼文2島と抜海〔バックアイ〕、稚咲内〔ワカサカナイ〕の海岸一帯、サロベツ原野の一部と海岸砂丘林を含む。利尻島はほぼ円形の火山島。聳える利尻火山は美しい裾野を海際まで伸ばし、利尻富士の名がある。礼文島は丘陵性の島ながら西海岸は海崖を連ねて雄大な海岸風景を見せている。両島ともに高山植物に恵まれ、お花畑が広く、中には貴重な植物も多い。北海道本島側は、海岸に発達した原

5. 記念物

わが国の文化財の保護は、1871年の「太政官布告・古器旧物保存方」に始まる。その後、「古社寺保存法」(1897年)、「史蹟名勝天然記念物保存法」(1919年)、「国宝保存法」(1929年)、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」(1933年)を経て、以上を統合するものとして「文化財保護法」が、1950年(昭和25年)に制定された。



* 「文化財体系図」 (<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/gaiyo/>)
より作成

記念物とは、①貝塚・古墳・都城跡旧宅などの遺跡で我が国にとって歴史上または学術上価値の高いもの、②庭園・橋りょう・峡谷・海浜・山岳などの名勝地で我が国にとって芸術上または鑑賞上価値の高いもの、③動物(生息地・繁殖地及び渡来地を含む)、植物(自生地を含む)及び地質鉱物(特異な自然の現象の生じている土地を含む)で、我が国にとって学術上価値の高いもの、と定義されている。

文化庁は、これらの記念物のうち重要なものをこの種類に従って、**史跡、名勝、天然記念物**に指定し、さらに特に重要なものを**特別史跡、特別名勝、特別天然記念物**に指定している。この指定は、有形文化財における重要文化財・国宝のそれと軌を一にしており、特別史跡・特別名勝・特別天然記念物は国宝に相当するものである。特別指定された記念物が貴重な国民的財産であるばかりでなく、人類共通の財産でもある点に鑑み、われわれはこれらを大切に保存し正しく活用する責務がある。一方で、観光の楽しみの中には、国指定だけでなく**各自自治体の貴重な文化的遺産**も含まれることも多い。(国の各指定物件は文化庁「**国指定文化財等データベース**」を参照。)

2020年6月1日現在、文化庁による**史跡、名勝、天然記念物**の指定件数は**約 3300 件**。そのうち**特別指定**を受けたものは**174 件**であり、その内訳は、特別史跡 63 件、特別名勝 36 件、特別天然記念物 75 件である。

特別史跡、特別名勝、及び特別天然記念物は以下の通り。

* 出典：文部科学省文化庁「国指定文化財データベース」

(https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/categorylist?register_id=401)

(1) 特別史跡

北海道	五稜郭跡
青森県	三内丸山遺跡
岩手県	中尊寺境内 無量光院跡 毛越寺境内 附 鎮守社跡
秋田県	大湯環状列石
宮城県	多賀城跡 附 寺跡
栃木県	日光杉並木街道 附 並木寄進碑 (特別史跡および特別天然記念物)
	大谷磨崖仏
群馬県	金井沢碑